



子ども大学よこはま  
THE CHILDREN'S UNIVERSITY OF YOKOHAMA

## 2017年度 第5回授業の報告

日時:2018年2月24日(土曜日)14:00~16:00/場所:横浜市技能文化会館 ホール

今年度最後の授業は、アフリカにあるブルキナファソという国のお話です。  
出席した“学生”は、全部で49人、4年生16人、5年生19人、6年生14人でした。

### <第5回授業プログラム>

#### 「アフリカのストリートの子どもたち」

1.ブルキナファソとアフリカ 2. 文化人類学 (ぶんかじんるいがく) 3. ストリート・チルドレン

講師：清水 貴夫 (しみず たかお) 先生 (広島大学教育開発国際協力研究センター 研究員)



#### \*清水貴夫先生のご紹介

広島大学教育開発国際協力研究センター 研究員。  
専門は、文化人類学 (ぶんかじんるいがく)。  
おもにアフリカの研究をしています。

#### ○先生の書いた本：

『子どもたちの生きるアフリカ』(清水貴夫・亀井伸夫編、昭和堂)  
アフリカを研究している研究者たちが、アフリカ各地の子どもたちの生活ぶりを紹介しています。アフリカの現在を、子どもたちの目を通して知ることができる本です。

#### ☆アフリカに一番近い都市 横浜

これまで横浜市では、アフリカの国々の代表と国際機関などが集まって、アフリカの開発について話し合う「アフリカ開発会議」が2回開かれました。同時にアフリカの暮らしや文化を紹介する、楽しいイベントも市内でたくさん行われました。来年2019年にもアフリカ開発会議がやってきます。アフリカを知るチャンスですね。

#### 先生といっしょに



## 先生への質問と回答 (抜粋)

質問：ストリートにやってきた理由の1つに入っている、「クルアーン学校」って何ですか？

回答：クルアーンというのは、コーランというイスラムの聖典を覚えるための学校です。イスラム教の人たちはお祈りをするためにコーランを覚えなければなりません。そのコーランを教える学校がもともとの形です。

学校というより寺子屋みたいなものです。イスラム教のお坊さんにあたる人がいて、親が子どもたちにコーランを勉強させるためにお坊さんのところに住まわせます。

コーランを全部覚えるのに6年ぐらいかかります。その間、本当は親が子どもたちの食費などを学校に入れたいといけませんがそれができないんです。するとお坊さんのところの畑を耕したりする一方で、畑を耕すことができない時期は、人の家をまわって「ものごい」をするんです。都市のクルアーンでは畑がないので、ずっとものごいをさせます。もちろん午前中は勉強をしますが、勉強をしてない時間はものごいをします。その子どもたちをNGO（民間の活動団体）の人たちは「ストリート・チルドレン」だといいました。

今それが問題になっていて、普通の学校の授業の中にクルアーン（コーラン）を取り入れた新しい形の学校がどんどん出てきています。



質問：ストリート・チルドレンが盗み（ぬすみ）をするということですが。

回答：ストリート・チルドレン同士で、寝ているときに友だちのポケットからお金を盗むということはよくあります。けんかの原因はだいたいそれです。

子どもたちが、大人たちや町の人たちから盗むという話は、ぼくは聞いたことがありません。

ただ全然関係ない人たちが自分たちのやったことを、子どもがやったと罪をなすりつける、ということはいくつもあります。ほかの泥棒がお金を盗み、子どもたちがやったと言って子どもたちが捕まることがあります。

質問：ブザンの家（木の家）で移動しながら暮らす民族がいると本で知ったんですが、その民族と、土で固められた家で暮らす民族との違いは何ですか？

回答：よく調べましたね。西アフリカには、フルベという遊牧民がいます。東アフリカの遊牧民にはマサイなどがいます。

移動する民族とそうでない民族の生活の違いはここ20年ぐらいの間にあまりなくなってきました。少し前までは、遊牧民は毎年ほぼ決まったルートを生牛や羊、ヤギを飼いながら移動していました。

長い人で年間800~900キロを移動します。飼っている牛は数百頭です。家は軽いので移動は簡単です。遊牧民は実はとてもお金持ちです。牛は1頭5~6万円するので、牛だけで500万円、600万円になります。

土の家に住んでいる人たちは、農業をしています。家畜はフルベに預けてしまいます。自分の畑をたがやして、雑穀（ざっこく）やトウモロコシ、イモなどを作って暮らしています。

質問：ストリート・チルドレンの一番小さい子はどのくらいの年齢ですか？

回答：ぼくが知っているのは、お母さんといっしょにストリートの生活を始めた子どもたちで、その中にはゼロ歳の子がいました。

お母さんが、お父さんと離婚させられて村を追い出され、行き場がなくなり、町にやってきて子どもが生まれてしまったんです。生まれて数か月の双子です。またお父さんお母さんと旅行にやってきて、はぐれてしまってストリートで生活を始めた5歳の子がいました。すぐにNGO（民間の活動団体）が引き取りましたが、2か月ぐらいストリートで過ごしていました。

## 【授業後のアンケート】

＜学生の回答から＞

46名の学生（4年生16名、5年生17名、6年生13名）がアンケートを提出してくれました。

### 1. 世界地図で「ブルキナファソ」という国を見つけましたか？

全体の84.8%（39名）の学生が見つけたと回答しています。

### 2. 今日の授業は楽しかったですか？

「楽しかった」と回答した学生は全体の54.3%（25名）（4年生43.8%、5年生70.6%、6年生46.2%）でした。反面、「どちらとも言えない」と回答した学生は39.1%（18名）でした。

### 3. アフリカのストリートの子どもたちについて、どう思いますか？（抜粋）

- ・かわいそうだと思った。
- ・とてもがんばっていて、すごいと思った。
- ・貧しくなく、普通の大切な一人の人間だと思った。
- ・ストリート・チルドレンのような人が減ればいいと思った。
- ・ただ、路上生活しているのではなく、深い理由があると思う。
- ・大人より立場が弱く、大人の犯した犯罪なども、なすりつけられて捕まってしまうと、理不尽なことが多いので、子どもの権利や立場をもっときちんと大人が理解すべきだと思う。
- ・たとえ貧しくても仲間がいて、楽しい日々を過ごしている。
- ・感情的な面だけで見てはいけないと思った。
- ・協力し合い、NGOなどの助けをかりて過ごしているのだなと思った。

### 4. 今日の授業を受けた感想（抜粋）

- ・ストリートチルドレン等のことについて話を聞いて、アフリカ大陸の子どもについて興味を持つことができ良かった。
- ・ブルキナファソの歴史には、すごく深いものがありました。
- ・ブルキナファソと言う場所は初めて聞いたから知ることができて良かったし、とても面白かった。



- ・すごく詳しくて、面白くてコーリャンなどの食べ物なことなどで、とても良かった。
- ・手に納豆臭がすごく付いたことが、とても印象に残りました。
- ・食べ物の匂いが衝撃的でした。日本と違うところだけでした。
- ・先生が資料などを分かり易く教えてくれたので、とても良く分かりました。映像も使っていたのでいいと思いました。
- ・いろいろな事情があって大変だな～と思いました。そして、親から離れて寂しい子も中にはいる

ると思います。でも、麻薬に手を出すのはダメなんじゃないかと思います。

- ・どういう人達なのか、少しだけ分かったから良かった。なんか、とろい人って思ってたけど、公共の場で生活しているだけで、自分と同じ子どもなんだなって思った。
- ・ブルキナファソは日本より貧しいけど、食糧自給率が高いことが分かった。ストリート・チルドレンは様々な問題を抱えた子どもがなってしまう、薬物にはまってしまうという問題はとっても大きな問題だと思った。
- ・私は、あまり世界の子ども達について知らなかったけれど、今日、ストリート・チルドレンについての話を聞いて、色々な人が協力し合い過ごしているのだなと思いました。
- ・アフリカに住む子供たちは貧しいとは聞いていたが、生活の仕方がこんなだったなんて驚いた。NGO等も、今、習っている社会の授業の参考にしたい。（6年生）



## <保護者の回答から>

32名（出席学生数の65.3%）の保護者がアンケートを提出してくださいました。

### 1. 今日の授業はお子様に興味、関心を持てる内容でしたか？

全体では半数を22名（68.8%）の保護者が興味、関心の内容だったと回答しています。

### 2. 今日の授業に合わせて、写真集やインターネットでアフリカの写真を見ましたか？

全体では22名（68.8%）の保護者が見たと回答しています。

### 3. 授業の満足度

全体では「大いに満足した」7名（21.9%）、「まあまあ満足した」18名（56.3%）と回答しています。



1年間の感想文を15名の学生が提出してくれました。

一人一人がこれまでの学びをふりかえり、また、ほかの学生がどんなふうに考えたか、感想文集を読んで、おたがいに学びあいましょう。



今回は、4人の高校生、大年君、坂本君、田中君、中野君、と横浜市立大学の早坂さんがボランティアとしてお手伝いしてくれました。  
ありがとうございました！

## スタッフミーティングから

近年、急速な発展を遂げているアフリカ。そのなか生きる子どもたちを文化人類学という視点でお話いただきました。ストリート・チルドレンを「かわいそうな子どもたち」としてではなく、同じ人として考える、そのきっかけができたかなと思います。

マイクの音量がちょっと小さかった、質問は前半でも、など反省点はありましたが、とにかく無事、今年度の授業を終えたことでほっとしました。

## 「子ども大学よこはま」企画・運営

特定非営利活動法人子ども大学よこはま 〒226-0027 横浜市緑区長津田 1-22-2-38

電話 090-3903-6875 EMAIL [inform@kodomodaigaku-yokohama.com](mailto:inform@kodomodaigaku-yokohama.com)

<http://www.kodomodaigaku-yokohama.com/>

<https://www.facebook.com/kodomodaigakuyokohama>